



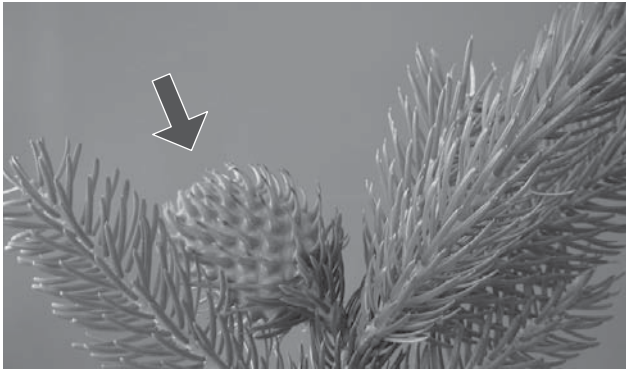
Muse Letter

2008.11 No.35 発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

“引越し”をするエゾマツカサアブラムシ



これは“松ぼっくり”でしょうか？実はこれはエゾマツカサアブラムシという昆虫がエゾマツの芽を変形させて作り出したものです。このように虫やダニが植物の一部に奇形をひき起こしてできたものを、まとめて“虫こぶ”と呼びます。エゾマツカサアブラムシの虫こぶを半分に割ってみると、中にはたくさんの幼虫が生活しています(下写真)。

エゾマツは北海道の木に指定されていて、札幌市内

では山間部や庭などで見られ、材木としても利用されています。エゾマツカサアブラムシはエゾマツの大害虫で、防除する研究は昔から行なわれており、これまではエゾマツだけに取り付いて増えていくと考えられていました(図：左側)。しかし、私たちが札幌市内で行なった実験により、一部のエゾマツカサアブラムシはエゾマツからカラマツへと飛んでいき、その翌年に再びエゾマツへ戻ってくる“引越し”をしていることが明らかになりました(図：右側)。ところが、この“引越し”には不思議なことがあります。エゾマツは北海道にもともと分布していますが、カラマツは明治時代以降に本州から人間が持ち込んだ木です。ですから、明治時代より前の北海道には、エゾマツとカラマツとの間を“引越し”するエゾマツカサアブラムシはいなかったこととなります。では、どこから来たのでしょうか。本州にはエゾマツもカラマツもありますので、そこではエゾマツカサアブラムシは“引越し”をしているかもしれません。そして、本州のエゾマツカサアブラムシがカラマツにくっついて知らず知らずのうちに北海道に持ち込まれてしまったのではないかと私たちは考えています。このことを明らかにするために、現在さらに研究を進めています。

(佐野 正和 / 北海道大学大学院農学研究院 専門研究員)

参考文献

Sano M., Tabuchi K. & Ozaki K. (2008) A holocyclic life cycle in a gall-forming adelgid, *Adelges japonicus* (Homoptera: Adelgidae). *Journal of Applied Entomology*. 132(7), 557-565.

